

授業分析とは何か

—授業分析の目的—

1 授業分析の意味 授業を研究するとはどういうことか？

○ 授業分析とは？

一見ただけではとらえにくい授業の特徴を、
授業の事実根ざしながら見出し、
他者に分かるように表現すること。

○ なぜ授業分析？

教育の理論構築のために・・・学問的知見の産出 ※授業の危機！
授業改善のために・・・Plan - Do - See の See
自分のために・・・教師（人間）としての成長

○ 授業分析のルール・・・方法はどうやってもいいのだけど、

- (1) 事実根ざす。
(記録をきちんと引用するなど)
- (2) 何らかの主張をするさいには、
そうではない可能性も検討する。
- (3) わかるように、表現する。

○ 記録の重要性

データをもとに、互いの主張を検証可能にする
記録のもとでの平等
教育研究の科学性

○ 手続きの重要性

データから分析結果が飛躍すると、共有可能性がなくなる
他者による追跡が可能

○ もっとも重要なのは？

意味を読み取る分析者
誰がやっても同じ結果になる (授業の評定)
ではなくて → 分析者の個性的な理解 (意味を分かち合う)

2 理論と実践との関わり 理論構築を指向した実践研究のあり方

○ 理論→実践 (当為)

※ 経験のうらづけのない規範 「・・・はずだから、・・・べきだ」

○ (理論) 仮説→実践(実験)→記述→理論→予測→実践

※ 仮説検証型パラダイム
予測の精度の高い理論(法則・命題)がめざされる
多数の事例の共通
予測の精度を高めようとするれば、個性がみえてこなくなる
要素還元的な見方・・・<析出>
制御可能な要因(外から変化させられる要因)が中心
仮説の枠の外にある事実の軽視・・・統制すべき対象、あるいは誤差

○ 実践→記述→理論→見通し→実践 ※柴田の現在の立場

※ 理論を作る 理論から見通しを得る には、力量が必要
示唆に富む理論構築がめざされる
授業諸要因の関連構造(名古屋大学教育方法研究室)
実践の個別性を重視
個別の中に可能性を追究 授業とは？ 子どもの発達とは？
関連構造的な見方・・・<顕在化>